

の他出版物など出費との見合の中で広告料が決まるので、現在の乗客数では多額の広告料を支払う企業のハードルは高いと考える。

今後は多くの方々の目に触れることを主眼に駅並びに線路など広告が出来る体制を整えたい。

質問 と、地域住民の足と別々に考えるのではなく「ふれ合い」「交流」が実感できる環境整備はできないか。

答弁 一般鉄道、一般バスの中に観光客が乗ると触れ合が生ずることは大いに進めるべきである。

ただ一定期間、目的を持って観光客用に設けた路線について一般市民が乗ると料金体系を含めて難しさがある。

市民も観光客も同じ交通手段を利用することは触れ合いや利便性が高いので力を入れていきたい。

質問 神代地区の上水道について、水源は角館の上水道からの説明を受けているが整備は

いつごろになるのか。

答弁 角館浄水場の水量は神代地区をカバーする容量があるので高速ろ過機の能力アップに努めている。一方、西

明寺地区簡水の認可区域を広げ、東前郷等カバーできると考える。今後利用に対する要望を再確認した上で、水道未普及地区の解消に取り組む。



神代地区の水源となるか角館浄水場

市内いたる所に桜の名所がある都市づくりを
実現に向けて構想を練ってみたい



青柳宗五郎

質問 合併当時から仙北市は観光産業を生かした北東北の交流拠

点都市にとの目標を掲げ、平成18年度には仙北市総合計画を策定、定住人口3万人、交流人口1千万との目標数値を具体的に示されているが、今後どのように目指すか、都市づくりの目標と方針について伺う。

答弁 仙北市として総合計画のもと、二十七年までの十年間での様々な項目に対する目標値を掲げながら、それに向かって進んでいる所である。仙北市がスタートして約4年、掲げた目標値と現実がかけ離れている部分もあるがそれに向かって努力したい。

定住人口は目標値ぎりぎりの所で進んでいる状況であるが、交流人口の方は、18年度623万人に対して19年度では596万人、20年度は525万人と減少が続いて非常に憂慮している。この地域の魅力、数多くある観光資源を有効に生かして回復し、更に増加に繋げたい。

質問 当市に來る観光客数は年々減っているようだが、現在の社会の状況の変化とともに、観光客のニーズも、観光に來る体制も非常に変わってくる現状にある。

総合計画が出来て3年余りが経過した。目標達成への方向性を明確に示して迅速に実行に移す事

が必要と考える。たとえば堤防の桜、樹齢70年が経過した老木という状況化となっている事を考えるに、政策としてこの仙北市が今後どう生きて行くのか、そのためにはいち早く取り組むべきものがあるのではないのか。

答弁 桜に関しては歴代人達が整備をし、残してきた結果が、そこへ行けば心が安らぐ、行ってみようという事で現在の観光に繋がっているとおり。今なすべき事はあるべき姿で残し続ける努力を、景観上の整

備とともに、活性化を求めている地域の住民との共通理解の中で進めていかなければ効果が無くなる。

堤防の桜のみならず古城山、田沢湖高原、生保内等、様々な所に桜があるが、手入れが十分にされていないが為に名所になりきっていない部分もある。植えた後の手入れや管理をどのように進めていくかも合わせ考えながら新しい名所づくりに取り組んで参りたい。



新しい名所が期待される田沢湖高原（高野）の桜並木